

アフガニスタン

パンジシール渓谷

反タリバーン戦士の眠る丘

2001年9月9日。同時多発テロの2日前、取材記者を名乗る青年の自爆テロによって、一人の男がこの世を去った。彼の名前はアハマド・シャーニマスド。「パンジシールの獅子」と呼ばれた勇敢な戦士は内戦の終結を目前にして、その生涯を終えた。

1979年、ソ連軍の侵攻によりアフガニスタンは長期の内戦に突入。ソ連軍が撤退した後も、軍閥同士の争いが4年間続き、94年にはタリバーンが勢力を拡大させていた。マスドは、反タリバーン勢力「北部同盟」の最高指導者として、パンジシール渓谷を拠点に、巧みな戦術で彼らと対峙した。

マスドの遺体は故郷ジャンガラツク村が望める小高い丘の上に埋葬されている。眼下には収穫の時期を前にした小麦畑が青々と生い茂り、豊かな香りが河川となって渓谷を流れる。

彼の死を悼み、6年が経過した今も多くの人々がこの丘を訪れる。緩やかな時を刻む渓谷を前に、誰しもが平和に思いをはせる。

ジャーナリスト 桜木武史(文と写真)



data 地理
アフガニスタンの首都カブールから北に150キロ、6000メートル級の山々が連なるヒンドクシ山脈の裾にパンジシール渓谷はある。主な産物は農業だが、上質のエメラルドも生産される。マスドが埋葬されている丘はカブールから車で4時間も走ると見えてくる。

世界の遺産



スクープ 中国「毒」は日本発 / 総力特集 参院選

AERA

'07.8.6

No.36定価360円

アエラ



ミュージシャン M.I.A.